

# 寒締めホウレンソウを特産物に

北相地区事務所

相模原市津久井地域の気候は夏は暑く冬は非常に寒い内陸性気候のため、冬の間は農業生産が難しい現状にあります。

しかし、この冬の寒さを利用して栽培する寒締めホウレンソウの特産化に取り組んでいますので、ご紹介します。

収穫できる大きさになった野菜に寒さをあてることを‘寒締める’と言います。一般に植物は低温にあると自己防衛反応として体内の糖分を増やし凍るのを防ごうとします。そのため野菜でも非常に甘みが強くなります。この仕組みを利用して栽培したホウレンソウが「寒締めホウレンソウ」です。一般的には糖度（Brix）は10以上で外観は葉がロゼット状態になっています。

北相地区事務所での栽培試験の結果から糖度、外観とも寒締めホウレンソウの条件をみとることが可能で、播種の適期は10月上旬から中旬ということがわかりました。

同時に産地育成をすすめるために、同事務所では現地に展示ほを設置し栽培指導を行うとともに、直売所での消費動向も調査しました。今年度は栽培及び販売方法について支援する計画です。



ホウレンソウ「雪美菜」

## 第53回全日本花卉種苗審査会 「花壇苗（秋）」の部が開催されました

果樹花き研究部

11月6日農業技術センターを会場に、(社)日本種苗協会主催による『第53回全日本花卉種苗審査会「花壇苗（秋）」の部』が開催されました。

花壇苗は毎年様々な品種が発表されて、ガーデニングを愛する人々を楽しませてくれます。この審査会は、種苗会社から発表される新品种を一堂に集めて、花壇の美しさを競うものです。今年は、パンジー、ビオラ、ダイアンサス、キンギョソウなどが4社から16品種出品されました。

栽培は、9月13日に1×1.5mの区画に3.5号ポット苗を植え付けることから始まり、審査会の11月6日までの約2カ月間、当センターで栽培管理を担当しました。9月上旬と10月下旬にまとまった雨がりましたが、平年に比べ雨が少なく天候も安定していたため、どの品種も順調に生育し、審査会までには花が咲きそろいました。

審査会当日は曇天でしたが、カーペットを敷き詰めたように美しい花が咲きそろい中で審査が行われました。審査は、(独)花き研究所、都県の花き試験研究担当者、種苗会社の担当者など12名の審査員によって行われました。

花の色の鮮やかさや花数、株のボリューム・そろい、花の咲きそろい、花壇で長い期間楽しめることなどが審査されました。



審査風景



1等特ビオラ「TV-500 ビビ クリアライトブルー」

〈審査結果〉

- 1等特 ビオラ「TV-500 ビビ クリアライトブルー」
- 2等 ダイアンサス「スプリンター オーキッド」
- 3等 ビオラ「TV-529 ビビ クリアイエローインプ」
- ダイアンサス「テルスター ピコティ」
- キンギョソウ「ローズスナップショット」

農業技術センターニュース

第8号

平成19年12月

発行 神奈川県農業技術センター

<http://www.agri.pref.kanagawa.jp/nosoken/nosoken.asp>

〒259-1204 平塚市上吉沢1617 電話 (0463)58-0333 FAX (0463)58-4254

♻️100 再生紙を使用しています